

(Lonely Night Gathering)

さみしい夜の句会報 第141号 (2023.10.29-2023.11.5)

- ◆ 参加者：うつわ、しまねこくん、円山すばる、石川駿、片羽雲
雀、何となく短歌、佐竹紫田、水の眠り、Suzumi, 古城エツ、西
脇祥貴、しるとも、雪夜替星、温(ぬ)、元さん、とるぼどーる、
思雨(スイ)、花野玖、中村マコト、西沢葉火、東こころ、石原
とつき、富永颯二、燕雀之心、海馬、佐々木ゆか、天天雷、り
ゆうせん、Tatsuo Karase、Take、みさきゆう、鴻鵠之志、萩原
アオイ、菊池洋勝、汐田大輝、たろりずむ、岩瀬 百、凧ちひろ、
上崎、馬勝、ばさ、比島アルト、涼閑、おかもとかも、ゆう
(かつし)、雷(らい)、まつりべきん、蔭一郎、dodkey、crazy
lover、石原とつき、小沢史、かれん、輪井ゆう、吉岡繁樹、白
石ボビィ、尾崎豊、びんぼう猫ミケ、な、月波与生(六〇名)

◆ 7・7、5・7・5 (川柳・俳句)

- 谷折りにするひとりきりにちようび 小沢史
再会は雨と珈琲ほどの距離 輪井ゆう
ハロウィンがなかった頃のちらし寿司 雷
滑舌が良いも悪いも菊人形 しまねこくん
卵産む隙間時間に二つほど 小沢史
秋桜サラブレッドの糖度ゼロ Tatsuo Karase
デカダンが押し寄せて来る秋の海 Tatsuo Karase
来週はもつと木曜 西沢葉火
強い風(だれかが黒鍵だけを弾く) 上崎
座り込む人から聞こえる効果音 岩瀬 百
お出かけですか玉座の小陰唇 西脇祥貴
【急募】サンドバッグの敬称 西脇祥貴
特別な夜を終わらせサングリア 東こころ

太陽は瘦せたアrikイムシの夢 汐田大輝
天心に月の卵を撒き散らす 汐田大輝
夢で飼う犬種がはつきりしない犬 りゅうせん
御利用は計画的に文化の日 しまねこくん
耳ザワリ子持ちシシャモの子のような 石川聡
ポプラぼくちも落ち葉しそうな 石川聡
湯豆腐は崩れて君が話しだす 中村マコト
一個ずつ林檎のコインパーキング しまねこくん

ユーチューブ鳥啼く声に耳澄ます うつわ
種採のできぬ墓標としての花 片羽雲雀
うら枯れて風とどまらず吹きぬぐる syusyu
恋う人と badend の夢で逢う しろとも
空が見る先にあるのは曼珠沙華 雪夜彗星
カーテンの隙間から覗く下弦の月 思雨
一山に季語の溢るゝ文化の日 花野玖
死にタヒと思へば鐘が鳴るナリ 富永顕二
ウオーホルの毛が見ているムール貝 海馬
フリーエージェントの行方温め酒 菊池洋勝
マクドナルドエンタイルツアーベース たろりずむ
擬音奏者の閨の声 馬勝

黄昏の波立つ海であるあなた 涼閑
昨年の手帳の予定埋まりだす かしくらゆう
立てこもり犯捕まりてより夜食 池田 突波
目には目を歯にはMSXを まつりぺきん
バラ肉をたくさん集めて咲かせよう おかもとかも
前世は木琴でしようきつとそう 蔭一郎
足して引いて足して引いて donkey
引き算を使ってなんぼの足し算じゃ crazy lover
コンコン、パカで割れずに水子供養 かれん

小指に絵を描くエロティックな人の 月波与生

◆ 5・7・5・7・7 (短歌)

トータムポールトータムポール積み上げるものがないのは
誰のせいなの みさきゆう
ほのめかす友へ手紙の返事書く連れてってくれと書けない
ごめん 円山すばる
ひとりだと独りきりだと気づくから雑踏の中好んで歩む
何となく短歌

陽だまりのような笑顔につつまれて目が覚めた朝 遠いま
ぼろし 佐竹紫円

ウユニ湖の水でうすめた青絵の具プレゼン前の心染めたし
水の眠り

噂ほど悪女でないのわたくしは 生卵なんか投げたりしな
い 水の眠り

飲み会の雑踏の中立ちすくむ白湯が飲みたいもう帰りたい
古城エツ

霜月に黄金の陽射し夏のようコスモス照らし太陽に向く
元さん

なるほどポルターガイストなお化粧にいざ鎌倉 石原とつ
き

秋風に洗濯物の影揺れるつられて僕を選択揺れる 燕雀之
心

黒飴を父に購う ☪ スキャン検査待つ間の口のさみしさ

佐々木ゆか

緋の色のガーベラを見た あの花は少しあなたの「赤」に
似ていた 天天雷

女子アナの「三連休」の一言にムカつきながら会社へ向かい
Take

風の谷金の野に立つ者の如(ごと)錦纏(まと)ひし母の凱旋
鴻鵠之志

滑り台一番上からぶら下がる我が子ダッシュでレスキュー
しに行く 風ちひろ

かぶとむし埋めたとこすら忘れてくように出会いを重ねて
ばかり 萩原アオイ

静心求め眺むる月影に消ゆる事無き霜月の罪 ばさ

涙を落とすそんな時 突然に 何かを失い得たのだろう
比島アルト

◆詩

夜空を見上げ深呼吸

大丈夫 大丈夫と

おまじない

草木の匂い

走る車のタイヤ音

眠たそうな雲

どこかの家の部屋灯り (温) (三)

同じ空の下 匂着巻いてる子らが泣く

明るい照明の中で スマホを操る私

同じ時間が流れているのに

時間は須く平等だけど

人の平等なんて観念の話でしかない

寿命の切り売りができるなら

貴方は泣く子らにどれだけ差し出せますか？ (とるばどー
る)

◆作品評から

恋う人と badend の夢で逢う しるとも

　　↓ 掲句を読んでいたら、なんか、

deadend' West End Girls'

　　ベッドの上で魚になったあと(井上陽水)、

　　などの語群がばーつと脳に来ましたw (石川聡)

湯豆腐は崩れて君が話しだす 中村マコト

　　↓ 湯豆腐が崩れたとたんに、好きな人が堰を切ったよう
　　におしゃべりなつた。とても物語性を感じるし、季節とか
　　人間模様も感じられて惹かれます。(石川聡)

デカダンが押し寄せて来る秋の海 Tatsuo Kanase

　　↓ デカダン

1. 道徳や健全な気風が崩れた結果の病的な気風。
 2. 芸術上の一傾向。反権威主義、反道徳主義、悪魔主義、病的趣味など反既成を特徴とする。
 3. 衰微・衰退。
- 1 & 3 と解せば、今の日本ほどデカダンにまみれた時期は
無いかもしれない。国の秋。(石川聡)

種採のできぬ墓標としての花 片羽雲雀

　　↓ 切ないです。俳句なのでしょうが、現代川柳として読
　　んでも味わいが。(石川聡)

【急募】サンドバッグの敬称 西脇祥貴

　　↓ 仏の顔 (吉岡繁樹)

耳ザワリ子持ちシシャモの子のような 石川聡

　　ゝつぶつぷプチプチで美味しいけれど想像したら耳がザ
ワザワしました（片羽 雲雀）

夢で飼う犬種がはっきりしない犬 りゆうせん

　　ゝ夢なのでいろいろはっきりしないのですが、夢でなく
ても犬種がはっきりしない犬って、いますよね（笑）

でも犬とはつきりしていれば、別にそれで良いのでは…と
いう逆説のようでいいなあ。 （まつりぺきん）

ウユニ湖の水でうすめた青絵の具、プレゼン前の心染めたし
水の眠り

　　ゝ何よりも清らかな、心にすつと溶け込むような青色に
なりそうですね。美しいです……！！（佐竹紫円）

ポプラぼくらは落ち葉しそうな 石川聡

　　ゝ「落ち葉する」、開発しましたね素敵な単語（白石ポ
ピー）

飲み会の雑踏の中立ちすくむ白湯が飲みたいもう帰りたい
古城エツ

　　ゝわかります。飲み会でつくる笑顔のシワの数数えてく
れるああなたが欲しい（尾崎豊）

とわんとわん炭酸水を注がれたグラスに月の光をゆらす
かきもちり

　　ゝ何といっても「とわんとわん」がいい。その分後半
「グラスに月の光をゆらす」がワリを食って平凡に感じら
れてしまうかも。（月波与生）

嘘泣きと言えずに続く終わりの会 中村マコト

「終わりの会」は学校を思い出す「終礼」はやつて
いる職場も多いのでは。早く帰りたいのにどうでもいいこ
とで終わらない地獄。(月波与生)

霜月に黄金の陽射し夏のようコスモス照らし太陽に向く
元さん

「二月なのに昼は夏のような日が続き…」

季節感がわからないですね (びんぼう猫ミケ)

潮騒がヘッドフォンから漏れてきてみんな無言の満員電車
蔭一郎

「やや書き過ぎの感もあるが魅力的な情景を切り取った。
良質な映画のオープニングのよう。(月波与生)」

深爪の痛みに鶴が来てくれる 蔭一郎

「爪が割れてしまうので爪は浅く切る派なのだが、鶴が
来てくれるなら深爪してもいい。「来てくれる」でおつう
を感じさせてくれる。(月波与生)」

秋風に洗濯物の影揺れるつられて僕を選択揺れる 燕雀之
心

「洗濯」選択がダメですね。もっと普通でいいと思いま
すよ。(月波与生)

引き算を使つてなんぼの足し算じゃ crazy lover

「哲学を感じる。深いじゃあないかい。(な)」

噂ほど悪女でないのわたくしは 生卵なんか投げたりしな
い 水の眠り

「いい御歌だと思います (とるぼとる)」